

図書館情報学系

教員数	教員等数 (人)	教授	助教授	講師	助手	技官〔準研〕	
		35	15	8	5	-	
異動状況 (人)	退職・転出	昇任		採用	学内		
	1	-		5	-		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数			学会発表数		
		国内	国外		国内	国外	
		96	24		89	24	
	受賞数	2件					
	研究費等	採択件数		採択率(%)		金額(千円)	
		科学研究費	12	21		20,987	
		学内プロ	-	-		-	
		奨学寄附金件数・金額	7件		5,000千円		
受託研究件数・金額		2件		4,925千円			
受託研究員	3人						
施設・設備							

・本学系は平成14年10月設置。

研究活動は図書館情報大学分も含めた件数（「学内プロ」は本年度関係なし）。

1 図書館情報学系の活動

本学系は、平成14年10月に図書館情報大学と筑波大学との統合に伴い、図書館情報大学図書館情報学部を継承する形で設置された。学系の教員は基本的に同学部の教員の移籍によるものである。統合にあたり新設された知的コミュニティ基盤研究センターを含めた組織の定員の見直しにより、学系では5名の教員を公募で迎え、また公募による3名の教員を平成15年4月に迎える。若き多くの新人到来は、統合を契機に新生した本学系にとって良きインパクトとなるものである。

本学系の前身である図書館情報大学図書館情報学部は、通常の研究活動のほか、我が国の図書館情報学における拠点的性格から、社会的活動に大いに貢献してきたところである。すなわち、本年度も含めこれまで長きに亘って新任図書館長研修（文部科学省、日本図書館協会と共催）、大学図書館職員長期研修（文部科学省と共催）、司書講習（文部科学省の委嘱事業）、学校図書館司書教諭講習（文部科学省の委嘱事業）を主催してきた。このような良き伝統を継承する統合後の本学系も上記の研修講師に多くの教員を派遣し人材養成等に多大な寄与貢献をしてきたところである。

2 自己評価と課題

前項で述べたように、本学系は、平成14年10月に設置後、半年を経過したところであるが、図書館情報大学図書館情報学部を継承したものであるため、10月以前の同大学の自己評価と繋がっている。図書館情報大学に対して、かねてより大学評価・学位授与機構が行っていた「研究活動面における社会との連携及び協力（平成13年度着手全学テーマ別評価）」に関する評価報告書が平成15年3月に公開された（その評価は実質的に本学系の評価である）。それによると、5段階評価（5点が最高点）で、項目「社会との取組」で4点、項目「取組の実績と効果」で4点、項目「改善のための取組」で3点であった。

これまでは、図書館情報学分野における我が国唯一の国立大学として文部科学省より直接的な配慮を受けてきた側面もあるが、これからは一大学の一学部相当の学系として、筑波大学開学以来存在する他の26学系と伍して生きていかねばならない。一方、図書館情報学にとってはその汎学術的な性格から、一単科大学として独立して発展するには限界もあり、むしろ総合大学という環境の中にあって多くの他学問分野と複合して行くのが今後の発展の上で有利であると考えられる。つまり他学系との競争と協調の中で本学系をいかに発展・充実させるかが当面の課題である。